

森と水、そして私たち

横浜市立篠原中学校

三年 鈴木 康太

もしも家の水道の元栓が壊れたらどうしますか。元栓は水道の制御装置の役割を担っています。つまり、元栓が壊れると、家の蛇口などから出る水の量を制御できなくなってしまうのです。そして、その状態で家のすべての蛇口から水が常に出てきたら、どうなると思いますか。排水が追いつく程度なら問題なくはないと思います。

もし排水が追いつかないくらいの水が出てきたら、どうなってしまうのでしょうか。

そのような状態になってしまうと、家の様々な場所から水が溢れ、部屋は水浸しになり、部屋にある紙や電子機器を使えない状態になってしまいます。そうなるとうと、部屋であれば水を外に出して床を拭いたり、紙であれば乾かしたり、電子機器であれば修理に出したりし

なければならず、手間や費用がかかり、私たちに負担となります。もしも自然環境がこのような状態になってしまったら、どうなってしまうのでしょうか。

自然環境で先ほど述べたような状態になってしまうと、雨が降れば、雨が降った分だけ川に水が流れ込むようになります。そして川にも容量があります。つまり川の容量を超えるほどの雨が降った場合、洪水が発生してしまいます。また、雨が全く降らないと、川に流れ込む水はなく、逆に川の水はどんどん海に流れていってしまうため、いつか川が干上がってしまいます。

最近の日本でも、二〇二三年の秋田県の大雨による洪水や二〇二二年の東北・北陸地方の線状降水帯による洪水など、よく洪水が起こっています。けれども、同時にナイジェリアやエチオピア、ソマリアなどの世界の様々な地域では、干ばつによって頭を悩ませられている人もいます。

しかしそのような事態が多発しないために、自然の制御装置である森があります。ところが私たちは、その大事な森を大切にするどころか、どんどん伐採して、森を失っていています。

森をこれ以上失わないためにも伐採しないことに決め、全く人の手を加えないようにしてしまうことも、かえって悪循環を生む原因となってしまいます。

なぜなら、手入れがされていけない水道の元栓は時間とともに錆びていき、動かさずらくなっていきます。そして本来の機能が失われていきます。それは森も同じで、森も時間とともに錆びていってしまいます。だから森には、ときに伐採したり、木を植えたりするなどの正しい手入れが必要です。

森を正しく手入れしていくと、より多くの水を蓄え、「緑のダム」としての役割だけでなく、より多くの二酸化炭素を吸収してくれるため、地球温暖化を抑え、気候変動による水の問題を減らす役割を果たします。

このように森と水、そして私たちはだれかが欠けたら生きていくことのできない、切っても切り離せない必要不可欠な存在同士なのです。だから、今の私たちに求められていることは、森と水と私たちが互いに手を取り合って、助け合いながら、うまく歩んでいくことなのです。